



令和4年4月1日
園長 石川 典子

令和4年度 港区立にじのはし幼稚園経営計画 — 気づき、考え、判断し、行動する子 みんな笑顔の幼稚園 —

1 教育理念（生きる力の基礎を育む幼稚園）

公立幼稚園の使命

- 幼児期にふさわしい生活を通じた質の高い教育を実践する幼稚園
- 地域・保護者ととともに子どもを育てる幼稚園
- 教職員が専門性を高め合い協同（働）する幼稚園

幼稚園は学校教育の始まりです。幼児期の学びは、幼児を取り巻く「人・物・こと」のすべての環境と関わり、直接体験である遊びや生活の中で展開される自発的な活動を通して行われます。一人ひとりの幼児がもつ、生まれながらにして自然に成長していく力と周囲の環境に能動的に働き掛けようとする力を支え、安定した情緒の下で自己を十分に発揮すること、幼児期にふさわしい生活が展開されることを基本に、心身の調和のとれた発達の基礎を培います。

幼稚園教育要領・学習指導要領では、幼児期から高等学校卒業までの学校教育全体において育成すべき資質・能力の3つの柱が示されています。幼稚園では、それぞれの資質・能力を個別に育てるのではなく、遊びや生活を通して一体的に育てていきます。また、地域の公立幼稚園として、子どもたちが暮らす地域の環境や人との関わりを深め、家庭と協力して教育を進めてまいります。

幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることで見られるようになる具体的な姿としての「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校教員と共有し、子供たちの「育ちと学び」をつなげていきます。港区立幼稚園の教職員として、常に学び、互いに専門性を高め合い、小学校以降の教育との連携、地域の幼児教育をリードしていきます。

幼児教育において育みたい資質・能力（生きる力の基礎を育む）

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする
「知識及び技能の基礎」

気付いたことやできるようになったことなどを使い、考えたり、工夫したり、表現したりする
「思考力、判断力、表現力等の基礎」

遊びを通して一体的に育む

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする
「学びに向かう力、人間性等」

2 にじのはし幼稚園の教育目標（令和4年度の重点）

しなやかでたくましい子 人も自分も大切にする子 自分で考え行動する子

にじのはし幼稚園に通う子どもたちを、3年間で教育目標のように育てていきます。

3つの目標に向かい、幼児の遊びや生活を通じて一体的に育てていきます。

今年度は「自分で考え行動する子」を重点とし、気付き、よく考え、判断し、行動する幼児を育てる教育を進めてまいります。

3 幼稚園経営の方針

- ・全ての幼児を、教職員全員で育てていきます。
- ・幼児、保護者、地域との信頼関係を基盤に幼児の学びを支えます。
- ・幼児の姿を温かな目で見取り、教員同士のカンファレンスを通してより確かな幼児理解につなげ、発達に必要な環境を整えます。
- ・幼児の育ちゆく方向を意識し、その時期にふさわしい経験が積み重ねられるようにします。
- ・小・中学校、保育園との交流・連携を進め、地域の公立幼稚園として幼児教育と小学校教育の円滑な接続を進めます。

<気付き、考え、判断し、行動する子ども・保護者・教職員像>

気付き、考え、判断し、行動する子ども

- ① 自分のことは自分でする子ども
- ② 食べ物の好き嫌いなく、早寝・早起き・朝ごはん・朝ウンチ、自分の健康に関心をもつ子ども
- ③ 全身を使って遊び、安全に対する構えのある子ども
- ④ 好奇心・探究心をもち、何事にも積極的に関わり考える子ども
- ⑤ 話す・聞く楽しさ、伝え合う喜びを味わえる子ども
- ⑥ 絵本や物語を楽しみ、豊かなイメージをもつ子ども
- ⑦ 自分の力で行動し、やり遂げる充実感を味わえる子ども
- ⑧ 人と関わる楽しさを味わい、相手の思いに気付ける子ども
- ⑨ よいことや悪いことに気付き、考えて行動する子ども

気付き、考え、判断し、行動する保護者

- ① 子どもの思いや成長に気付き、子育てに喜びを感じる保護者
- ② 子どものやる気を見守り、支える保護者
- ③ 学級の子どもたちの成長をともに喜び合える保護者
- ④ 幼稚園の教育活動に積極的に関わり地域とつながる保護者

気付き、考え、判断し、行動する教職員

- ① 心身共に健康で、明るく笑顔で、さわやかな教職員
- ② 相手の状況、思いに気付き、考え、行動できる教職員
- ③ 社会人として、教育公務員として責任感、情熱、使命感をもつ教職員
- ④ 幼稚園全体の子どもたちを、教職員全員で育てる意識をもち、協働する教職員
- ⑤ 自ら資質を高め、研究と修養に励み努め、改善・工夫をする教職員
- ⑥ 子ども、保護者に真摯に向き合い信頼される、専門性をもつ教職員
- ⑦ 地域と幼稚園を愛し、保護者や地域と連携・協働する教職員
- ⑧ 柔軟な発想をもち、働き方を見直し、改善や効率化に取り組む教職員

4 経営の重点

中期的目標（2年間を目途に取り組む目標）

- (1) 一人ひとりの基本的人権を尊重し、発達の特性に応じた個別最適な学びを実現させ、教育目標の達成をめざした教育活動を推進し、生きる力の基礎を培う。
- (2) 教職員一人ひとりが、教育目標や経営方針を自分の課題として捉え、組織の中での役割を意識し、相互に協力、学び、成長し合い、総合力を発揮し、園全体の幼児を育てる教職員集団を形成する。
- (3) お台場アカデミー学校運営協議会を推進し、お台場学園港陽小学校・港陽中学校、地域、保育園との密接な連携を図り、地域との関わりの中で育つ教育環境を構築し、地域とともにある幼稚園を推進する。
- (4) 保育園との交流・連携を進め、同じ地域に暮らす幼児同士の関わりを深めるとともに、地域の幼児教育の質の向上、小・中学校との交流、連携、接続において、リーダー的役割を果たす。
- (5) 働き方改革を推進し、教員が心身共に健康に生き生きと働くことができる職場環境に向け、園長のリーダーシップの下、職員一丸となって行事や仕事内容の精選・業務改善を行う。

今年度の主な取り組み

- (1) 健康な生活リズムと習慣、基本的な生活行動が身に付くようにします。
 - ①「基本的な生活習慣の形成」、「清潔に関する指導」、「早寝、早起き、朝ごはん」、「危険予測や回避能力の育成」など自立心を育み、安全への意識を高めます。
 - ・講師招聘や視聴覚教材等の活用により、より分かりやすく丁寧に指導するとともに、家庭と連携した実践により確立します。
 - ②様々に体を動かし、心と体が動く気持ちよさや楽しさの体験や、基本的な動きの獲得、体幹を鍛錬し、健康な心と体を育みます。
 - ・発達に即した運動遊びの工夫、戸外遊びの推奨、専門講師を招聘し「ヨガ」「タグラグビー」を行います。
 - ・新型コロナウイルス対策として、「幼児自らが手洗い、手指消毒ができる環境の工夫」、「換気・空気清浄機の活用」、「密を避ける工夫」を確実にしています。

(2) 幼児の主体性を重視し、豊かな感性と創造性を育み、思考力の芽生えを培います。

遊びに没頭する中で、心動かされる体験を重ね、幼児自らが、気づき・考え・判断し・行動する中で、試行錯誤や振り返りの経験を積み重ねられるようにします。

① 教師の指導を幼児一人ひとりに応じて行います。

・長期・中期・短期指導計画作成の際の観点(幼児の発達の過程・興味・関心・行事等)を明確にし、幼児の体験の質が高まる援助や環境構成を考え、主体的・対話的で深い学びを実現させ、園生活の充実を図ります。

・カウンセリングマインドを念頭に幼児理解を深め、教師の多様な役割に基づき、幼児への関わりを工夫します。

・直接体験を通して、してよいことや悪いことがあることに気付かせ、社会生活に必要な約束や決まりを守ることの必要性を感じさせていきます。

② 少人数保育における教育内容の充実を図ります。

・異年齢集団の活動における豊かな人間性の育成に向け、交流しやすい環境を工夫し、年長組保育室の配置を改善します。

・学級の幼児数を考慮した経営・保育内容・教材などを研究し、実践後、複数の教師による日常的な評価の実践を通して、カリキュラムマネジメントを実現し、教育の質を向上させます。

・異年齢交流をOJTの機会と捉え、実践的な指導を通して、教師同士の学びの機会を保障します。

・特別な配慮を必要とする幼児には、園の全教職員で情報を共有し、非常勤講師・介助員等と連携し、チーム保育を充実させ、一人ひとりの特性に応じた保育内容や経験の工夫を行い、発達の課題に即した指導を行います。

③ 教材や行事を工夫し、心動く体験へとつなげ、豊かな学びを保障します。

・ICT機器を活用し、オンライン交流の実施や、幼児の好奇心・探究心を新たな興味関心へと広げるなど、主体的・協同的な学びにつなげます。

・絵本や物語等に親しみ、言葉に興味・関心をもてるよう、日常的な読み聞かせやパネルシアター等に加え、多様な題材や語りに触れることができるよう、「お話会」を開催します。

・清掃活動等を通して、社会貢献の意欲や他者を思いやる心を育み、自尊感情を高めます。

・SDGsの目標14・15の海洋資源や陸上資源を重点に、発達段階や季節に合わせて、生き物との触れ合い、植物の栽培や収穫、園庭の自然物の活用や近隣の公園や海での自然体験や親子清掃活動などに継続的に取り組み、自然を愛する気持ちを育み、命あるものを愛おしむ気持ちの芽生えを培います。

・地域への愛着や社会とのつながりの意識を育むため、様々な場面で多様な人との関わりを通して、人と関わる楽しさ、地域とのつながりを感じる体験となるよう、「わくわくデー」、「未就園児との交流」、「保育園との交流」、「お台場学園港陽小学校・中学校との交流」、「在宅サービスセンター、児童館の訪問」などを実施します。

・学校2020レガシーの「日本人としての自覚と誇り」、「ボランティアマインド」を重点とし、伝統行事やお茶会など、伝統文化に触れる機会を大切にし、日本文化の良さを感じさせていきます。

- ・外国人の保護者から話を聞く機会をもち、異なる文化に触れる活動を通して、国際理解の意識の芽生えを養います。

(3) 社会に開かれた教育課程を推進します。

お台場学園港陽小学校・港陽中学校、地域、保育園との連携を図り、保・幼・小中で学びの連続性を重視した教育を推進し、地域の幼児教育の質の向上において、リーダー的役割を果たします。

- ① 学校運営協議会での協議を通して、教職員、地域住民、保護者で教育目標を共有し、地域と共にある幼稚園教育を推進し、地域と協働して子どもたちの豊かな成長を支え、地域との関わりの中で育つ教育環境を構築します。
- ② 保幼小連携の取り組み、研究保育・研究授業等で、幼稚園・小学校の教員が教育活動を見合う機会を活用し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に、互いの教育や幼児・児童理解を深めます。その際、「令和2年度版 小学入学前教育カリキュラム」や「5歳児指導ポイント集」を活用し、カリキュラムの接続を推進します。

(4) 研究の推進し指導力の向上を目指すとともに、働き方改革を意識して職務に取り組みます。

「気づき、考え、判断し、行動するにじっ子の育成～主体性を育む環境構成や教師の援助を探る～」を研究テーマとし、「園内研究」「お台場アカデミー研究」「保幼小連携」を進めます。

- ① 園内研究会に大学教授を講師として招聘し、研究保育・協議会を実施する。また、主体性を育む援助や環境構成についてカンファレンスを行い、実践に生かします。
- ② お台場アカデミー研究授業・協議会を、お台場学園港陽小学校・港陽中学校とともに実施し、教員間の交流、互いの教育についての理解を深めます。
- ③ 保幼小合同研修会において、研究授業と連絡会を行い、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を共有し、小学校入学への円滑な取り組みについて理解を深めます。
- ④ 「港区教職員の働き方改革実施計画」に則り、業務改善及び計画的な職務の遂行により、ライフワークバランスの実現し、心身共に健康で生き生きと職務に取り組みます。

(5) 子どもたちの姿や育ち、教育資源を、保護者・地域と共有します。

幼児の教育は、幼稚園・家庭・地域で連続的に行われています。家庭・地域の皆様に、幼稚園の取り組みを理解していただき幼児の姿や育ちを共有することは、幼児の望ましい発達の循環につながります。

- ① 園便り、学級便りで、幼稚園の方針や学級の運営について分かりやすく伝えます。また、ホームページ、Twitter では、教育日に発信を行い教育活動の様子を伝えます。Twitter の発信を周知し、家庭・地域からのフォローを増やし、緊急災害時の活用にも備えます。
- ② ホームページ、緊急配信メールを活用し、幼稚園からの情報を迅速に伝えます。
- ③ 幼稚園公開、行事の参観は、分散した公開や参観などの工夫をし、幼児の姿や育ちの理解につながるようにします。
- ④ 保護者会、個人面談、登降園時、行事後の保護者アンケートなどの機会を活用し、保護者との連

絡を密にし、迅速な対応をしていきます。

- ⑤ サポート保育や未就園児の会、園庭開放、絵本の貸し出し、子育て講座の開催など、保護者や地域の実態に応じて、創意工夫し子育ての支援活動を行います。

(6) 取り組みについて評価を行い、保護者・地域に報告し、よりよい教育の充実に努めます。

今年度の教育課程の実施状況について評価し、改善を図ります。

- ① 幼稚園公開、行事等の実施後に、幼児の取組の様子や成長、保護者の感想などを基に即時に評価を行い、次年度の実施に活かされるようにします。
- ② 学期ごとの評価、遠足や交流といった項目ごとの評価を行い、年度末の学校評価につなげます。
- ③ 今年度の取組について、保護者アンケート、学校運営委員会委員アンケート、教職員アンケートを実施し、自己評価を行います。それらを基に学校運営委員会に評価いただき、今年度の学校評価として次年度の教育課程に活かします。学校評価は、保護者会、ホームページ等で保護者・地域の方々に報告をします。